

オー

腸管出血性大腸菌（O157）感染症患者等の発生について（第2報）

令和元年 7 月 29 日発表の砺波厚生センター管内における腸管出血性大腸菌（O157）感染症に係る調査を実施したところ、3名から腸管出血性大腸菌が検出されました。

1. 患者等の状況（いずれも砺波厚生センター管内）

- ・患者等 ① 患者 男性（20 歳代）
② 感染者 女性（20 歳代） ③ 感染者 女性（60 歳代）
- ・経緯 7 月 29 日（月）第 1 報の患者発生を受け、砺波厚生センターが接触者の健康状況調査（検便）を実施
7 月 31 日（水）患者等 3 名から腸管出血性大腸菌 O157（VT1, VT2）検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 ①患者：軟便 ②感染者：なし（無症状） ③感染者：なし（無症状）

2. 患者、感染者及び感染源調査

- ・患者及び感染者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- ・患者、感染者及び家族等接触者の健康状況調査を実施
- ・患者及び感染者に対し、医療機関の受診を勧奨

3. 対応

- ・患者及び感染者の自宅等の消毒を実施
- ・患者及び感染者及び患者家族等に対し、衛生教育を実施

4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、十分洗淨消毒してから使いましょう
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食べるときの箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

5. 参考

	(令和元年)	(平成 30 年：同時期)
--	--------	---------------

(1) 0157	8 名 (本事例を含む)	5 名
(2) 026	6 名	9 名
(3) 0111	0 名	2 名
(4) 0118	0 名	1 名
(5) 0128	0 名	2 名
(6) 0182	1 名	0 名

【報道機関各位へお願い】報道に際しては患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。